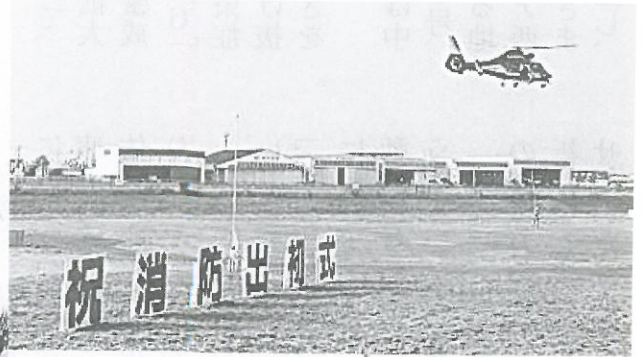


発行所  
八尾市消防団  
発行責任者  
八尾市消防団長  
小角道男  
八尾市高美町5-3-4  
TEL(072)992-0119  
FAX(072)992-7722



2 0 1 0



消防出初式

平成22年1月11日(月)大阪府中部広域防災拠点において消防団員と消防職員計457名、消防車両36台が参加し八尾市消防出初式が挙行されました。

当日は天候に恵まれ例年になく暖かい一日となりました。

式典は消防音楽隊を先頭に幼年消防クラブ、消防職員、消防団員による分列行進、自動車部隊の行進へと展開されました。整列後、国旗掲揚、殉職者に対する黙祷が行われ、田中市長からお言葉を頂いた後、長年地域の防災に貢献した団員に対し、市長表彰、団長表彰が贈られ、最後は消防団員・職員による一斉放水で幕を閉じました。また、一般の見学者にも多数お越しいただき地元の消防団を意識していただく良い機会になったと思います。

新年を迎え消防団員として訓練や地域の防災活動に一段と気をひきしめて取り組んでいかなければならないと感じた一日となりました。

高安分団 山脇 孝夫

「地域防災力の更なる向上」  
をめざして



八尾市消防団長  
小角 道男

日ごろから、消防団員の皆様には地域住民の安全を守るため、人方ならぬご苦勞の多いなかにあつて、奉仕の精神のもと献身的な活動を実施いただいておりますことに、深く敬意をあらわすとともに、消防団活動を陰でささえておられますご家族の皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

昨年は、4月から国内外で、新型インフルエンザの感染拡大により、6月にはWHOが警戒レベルを最高の「フェーズ6」に引き上げる等、未知の感染症が猛スピードで世界中を駆け抜けていく様に、底知れぬ怖さを覚えるものでありました。

7月から8月にかけては中国・九州北部の豪雨や台風9号、そして駿河湾を震源とする地震、海外では、インドネシア西スマトラ州パダン沖地震等さまざまな災害が相次いで発生し、

各地に大きな被害をもたらしました。

幸いに、本市におきましては、大きな災害にも見舞われず、また、多数の負傷者を出す事故も発生しませんでした。常に、いつ起こるからない災害時に「我々は自らのまちは自らで守る」という崇高な郷土愛護の精神で被害の拡大防止に努めなければなりません。

また、消防団の充実強化を図るため、平成21年4月には、条例定員を252名から280名に28名の増員を行い、より一層の地域の防災力の強化を図ってまいりました。

今後も、関係機関と連絡を密に取りながら、災害時には、迅速・的確に対応できるように活動体勢の充実・強化に努めてまいります。

団員の皆様には、非常に厳しい社会環境ではございますが、「安全・安心なまちづくりの推進」に向けて、より一層の消防団活動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

最後に、団員ならびにご家族の皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



大阪府消防表彰式

平成22年3月21日(日)平成21年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも消防庁長官表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【消防庁長官表彰】

○永年勤続功労章

団本部 副団長 西野 仁

【大阪府知事表彰】

○消防勤続功労章

曙川分団 分団長 吉川 公三

○消防功労章

久宝寺分団 副分団長 久田 義幸

高安分団 副分団長 坂井 弘明

志紀分団 副分団長 山本 悟秀

【日本消防協会会長表彰】

○功績章

団本部 副団長 畑中 裕昭

○精績章

団本部 副団長 西野 仁

【大阪府消防協会会長表彰】

○永年勤続章

山本分団 部長 石井 一夫

○勤続章

八尾分団 分団長 橋本 修

南高安分団 分団長 森山 敏

龍華分団 副分団長 辻村 良弘

大正分団 副分団長 平岡 元司

山本分団 副分団長 川上 剛弘

○勤功章

西郡分団 副分団長 内山 正

八尾分団 副分団長 川合 清隆

大正分団 副分団長 杉本 啓一

南高安分団 副分団長 寺川 寿彦

志紀分団 副分団長 上野 正巳

高安分団 部長 松田 均

○精勤章

久宝寺分団 分団長 横山 典久

南高安分団 副分団長 松村 浩司

八尾分団 部長 小川 元清

大正分団 部長 松本 徹

南高安分団 部長 馬谷 英明

南高安分団 部長 坂本 美英

高安分団 部長 松岡 孝明

近藤日出男

【高齢者叙勲】

○瑞宝単光章

元八尾市消防団

部長 林 駒男

(88歳)





叙勲瑞宝単光章

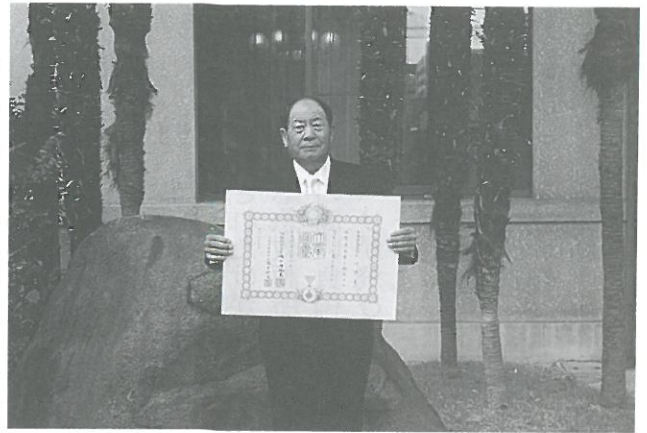
昨春秋、元八尾市消防団副団長の小川清義さんが瑞宝単光章を受章されました。

昭和44年八尾市消防団に入団され、平成19年に退団される迄の永きに渡り地域防災活動に活躍されてきました。

入団当時や地域防災活動の思い出をお聞きしたところ、当時は地元で仕事をしている方が多く、地元の方から勧められ入団されたそうです。



ポンプ操法の3番員をする小川さん(右から2番目)



入団当初は山火事が多く地域以外の防災活動にも参加されたそうです。最も印象に残った火災は昭和51年6月の恵光寺での火事で、本堂が炎に包まれ長時間に渡って消火活動を継続し鎮火する事が出来たそうです。入団してこれほど大きな火災に放水するのは初めてで、火災の怖さを実感されたそうです。

永きに渡り地域防災活動に貢献していただき有難うございました。

今回の受章に感謝の意を込めて受章おめでとうございます。

八尾分団 今井 隆



我々八尾分団は、橋本分団長以下11名で活動しています。

管轄は、東は長池町、西は宮町、南は光南町、北は小畑町の範囲で消防団活動をしております。毎月1日に消防車で管轄地域を走行し夜間パトロールを行い、防火を呼びかけ巡回しています。

ここ数年で団員の若返りが進む互いのコミュニケーションを図るため、去年の9月に大峰山登山を実施しました。またオートバイのレース等にも出場しています。

若い団員が増えましたので、今まで以上に積極的に消防団活動を頑張っていきたいと思っております。

八尾分団 中村 佳照



若なる会親睦旅行

ようやく春の気配が濃くなってまいりました。今日この頃ですが、若なる会皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成22年2月6日(土)〜7日(日)の若なる会親睦旅行に私を含め5名の分団長が初めて参加し、平安の雅が薫る南知多のホテルから望む伊勢湾の大海原を背に夕食会は盛り上がり、我々八尾市消防団の親睦を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

大正分団 分団長 嶋野 雅一

夕食会で一つの疑問がわきました。なぜ「若なる会」なのかということです。当時、会を作った分団長が高齢であったということで、若い気持ちで活動していくという意味で「わかくなる」：「若なる」会、となったそうです。事務局

### 八尾市防災訓練

平成 22 年 1 月 31 日 (日) 市内において震度 5 強の地震が発生したと想定し、大阪府中部広域防災拠点を中心とした大規模な防災訓練が実施されました。

私達志紀分団は、けが人を横した人形を担架で公園まで搬送し、待機していた救急隊員に引き継ぎ、集まった地域住民の避難誘導をするという内容のものでした。



当日はあいにく、小雨の降る寒い中での訓練でしたが公園には 100 人前後の住民の方々に集まって頂き、パトカーの先導により、八尾

空港に隣接する防災拠点へと徒歩で移動しました。中には小さな子供や、杖をついた高齢の方もいるので集団での移動は思ったよりスムーズにいかなかったため大変でした。

避難誘導後は、同会場で行われる各種訓練の見学となりました。

会場では訓練開始を告げる地震の轟音が鳴り響き、「FM ちゃお」からは緊急地震速報が流され、現場には事故を起したバスや乗用車内に残されたけが人が救助を待っている状態でした。

八尾市の各防災関係機関は被害状況の確認や通信網の確保、現場に駆け付けた警察は、道路上に停車する瓦礫に覆われた自動車を市民と協力し除去することで、緊急車両通行の確保に努めていました。そうしていると場内には市関係車両、消防車や救急車が到着し、車両に取り残されたけが人が次々と救出され、応急救護所に搬送した後、緊急性の高い負傷者を収容したドクターヘリが飛び立つと訓練の幕がおりました。

訓練とはいえ、会場全体は終始現場さながらの雰囲気になりました。身の引き締まる思いをしました。

志紀分団 山本 剛久

### 大正北小学校消防団取り学習

平成 21 年 11 月 17 日 (火) 大正北小学校にて、小学 4 年生を対象とした聞き取り学習を行いました。

近年、大正分団では毎年恒例となる聞き取り学習ですが、この授業の内容は、

- 消防団と消防職員の違い
- 防災意識の向上
- 八尾市の災害件数や

過去の事例照会

- 初期消火の重要性
- 消防車両及び資機材の説明などです。

当日は、雨天のため残念なことに子供達に人気の放水体験ができませんでしたが、ポンプ積載車の説明や水消火器の放水体験、予定内容を変更し体育館では南野団員自作の消防団の状況や様々な消防車の写真をスライドショーを活用し指導しました。

はじめは緊張気味の消防団員を前にし、興味津々の子供達でしたが、元気いっぱい楽しんでもらいました。杉本副分団長の提案で、今回初めて「FM ちゃお」が同行することになり、後

日聞き取り学習の様子が放送されました。

子供達やラジオ放送を通じて、地域の皆様に火災の恐ろしさ、防災について考える場を持つていただければと考えております。私たち消防団員は、これからも訓練を重ね、地域の安全を守るために頑張っていきたいと思っております。

関係者の皆様のご理解とご協力により、無事に終えることが出来ました事を深くお礼申し上げます。

大正分団 小林 邦章



### 消防団ポンプ取扱い訓練

平成21年11月8日(日)八尾市消防本部屋外訓練場にて、ポンプ取扱い訓練が実施されました。消防団員の定員増員に伴い、今年度は新団員が多く、従来とは一味違った訓練となりました。



訓練は新団員の参加が多く、いくつかの問題点が見られました。

- ① ホースの延長の不十分
- ② 分岐管の開閉ミス
- ③ ホースの折れ曲がり
- ④ 指示伝達時の小さな掛け声

### ⑤ テキパキとした動きのなさ

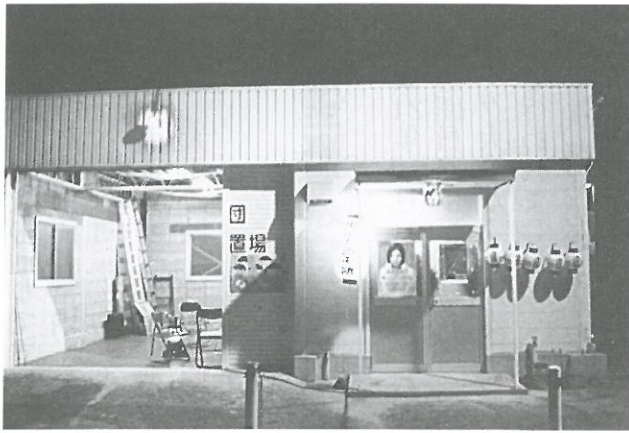
これらの問題点を改善し、いざ火災現場では迅速且つ的確に行動できるよう各分団でも訓練に励み、消防活動を早く身に付けたいものです。

最後に、私たちの街に火災が起らないことを望みます。

久宝寺分団 志村 武

### 歳末特別警戒激励巡視

平成21年12月29日(火)・30日(水)の二日間に亘り八尾市全域で歳末特別警戒が実施されました。



初日の29日には、全分団屯所

に対して消防団長の激励巡視が行われていきます。当日寒い中、西郡分団屯所には夜10時30分頃に到着され、団員が整列する中、激励をいただいた後、あわただしく次の分団に向けて出発されました。

団員一同、再度気を引き締め、その後の活動に取り組みました。

活動は消防車による巡回と徒歩での「火の用心」巡回を実施いたしました。



西郡分団では、地域に密着した活動の一つとして地元文化の伝承を兼ねて毎年「おでん」の炊き出しを行っております。

今後地域活動等にも積極的に取り組み、防犯防災意識を地域と共に高めてまいりたいと考えています。

西郡分団 澤田 吉行



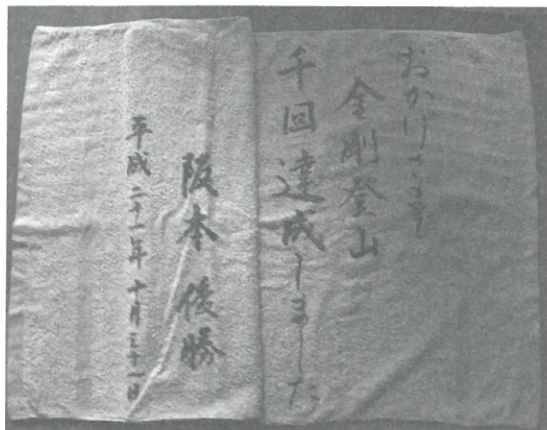
### 阪本方面隊長

### 金剛登山1,000回達成

この度、八尾市消防団大正分団の顔でもある阪本方面隊長が、平成21年10月31日(土)12年間の年月をかけて、金剛登山1,000回を達成されました。

この様な日々の努力により今日の阪本方面隊長があると痛感しました。これからも、2,000回・3,000回をめざし努力をして頂き、更に友好の輪を広げていかれる事を祈願申し上げます。

大正分団 竹田 隆誠



# ● 厚生事業ゴルフ ●

本来ならば春の消防団厚生事業である八消会ゴルフコンペが、世界中で猛威を振るった新型インフルエンザの影響で順延になり、平成21年10月3日(土)に奈良県春日台カントリークラブで開催され、小角団長以下総勢58名が参加し賑やかなコンペとなりました。

開催当日もインフルエンザの影響で中止にならないか不安になりながらも、皆さんの日頃の行いが良く無事に開催され、みんなまで和気あいあいと楽しく過ごせました。このゴルフコンペを機に、また明日から心機一転仕事・各地域の消防団活動に活躍されることをご祈願申しあげます。



上位の結果は次の通りです

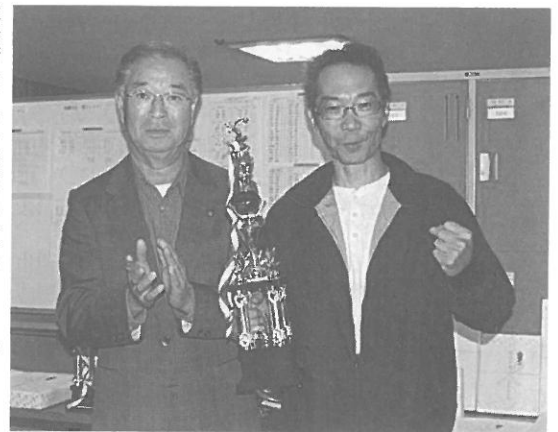
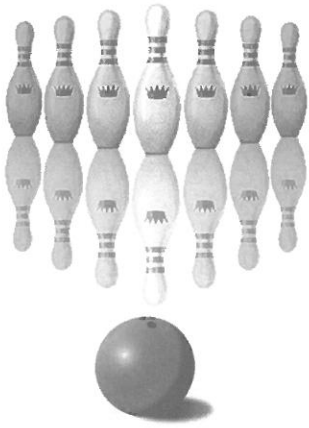
- 優勝 高安分団 当内 昌弘
- 準優勝 久宝寺分団 松本 圭司
- 第三位 大正分団 竹田 豊茂
- 大正分団 竹田 隆誠



平成21年10月31日(土)八尾市消防団員厚生事業として、ボウリング大会が、八尾ボウルアローで行われました。

当日は、189名の団員が参加し、熱戦が繰り広げられました。結果は次の通りです。

- 優勝 久宝寺分団 福田 正三
- 準優勝 副団長 畑中 裕昭
- 第三位 髙安分団 山口 泰憲
- ハイゲーム
- 203点 久宝寺分団 福田 正三



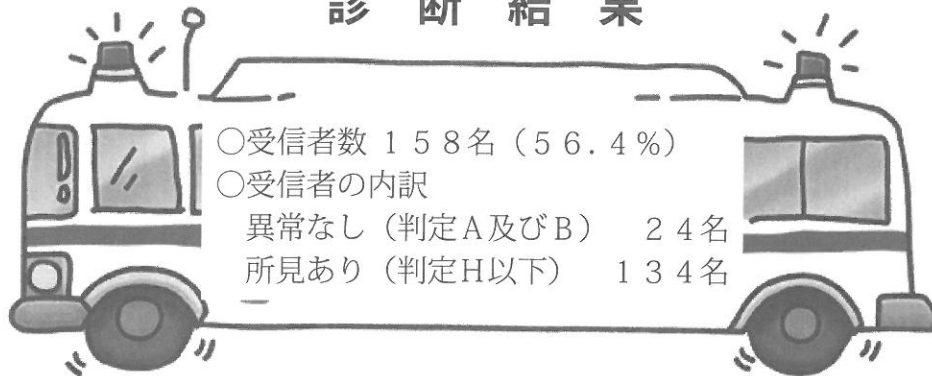
優勝をした福田氏のコメント  
「名前を呼ばれた時は、驚きました。優勝は無いと思っただので正直に嬉しい」  
久宝寺分団 松本圭司

## 健康診断

平成21年11月14日(土)に消防本部において消防団員定期健康診断が行われました。本年度は、団員280名中、158名の方が受診し、健康状態について熱心に質問されている光景が見受けられました。

多忙な毎日の中、なかなか自身の体への気配りがおろそかに

## 診断結果



なりがちです。自覚症状がなくても、こうした定期的な検診によつて、異常が見つかることもありますし、また生活習慣を見直す良い機会でもあります。健康な体を維持するためにも、団員の皆さん受診しましょう。

南高安分団 坂本 裕規

### 秋季消防総合訓練

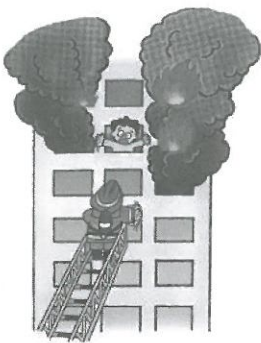
平成21年11月21日(土)午前10時から八尾市立病院東隣のザレスタージュ(15階建)マンションにおいて、消防関係車両9台、消防ヘリコプター1機、消防署員・団員・自主防災組織(居住者)総勢107名での秋季消防総合訓練が実施されました。

当日の訓練は、マンション4階の1室より出火、要救助者14名、バスケット担架収容救助者2名との想定で行われ、本番さながらの緊迫した雰囲気の中、はしご車による救出、救助隊による14階からのロープによる降下脱出、負傷者の救出救護、消火作業、消防ヘリによる屋上要救助者捜索、マンション居住者の避難誘導等が行われました。訓練が進むにつれて、最初はマンションの規模の大きさ、消防車両の多さに戸惑いながらも、次第に一人一人が何をどう行動しないといけないかがわかっていき、各持場や役割を全うすることができました。

今回の訓練で得たものを、これからの消火活動や災害時の行動、対応等に活かせるよう日々

心がけ努力していきたいと思えます。そして私たち消防団員の一番の役割として地域の皆さんにこの様な火災等が発生しないよう、予防啓発活動等をより一層取り組まないといけないと感じました。

龍華分団 山崎 聡



### 歳末高齢者ひとり暮らし 防火診断訪問

平成21年12月12日(土)と13日(日)の2日間に渡り、八尾市の各消防団の団員が消防職員同行で地域のひとり暮らしの高齢者宅を訪問しました。曙川分団は団員2名、消防職員4名で高齢者宅7件を訪問し、暖房器具、コンロ等の火の元の点検及び火災の発生を早期に見つける「住宅用火災警報器(8面関連記事)」の設置確認を行いました。

今日では八尾市でも高齢化社会を迎え、火災に気付かず逃げ遅れる方々が多いのが実情です。

高齢者の方々が自ら注意して頂くことも必要ですが、やはり火災や地震などの災害が起こったときは速やかに避難できるような、近隣の地域住民の方々の協力が必要です。消防団としては、住民の方々と日頃から親密なコミュニケーションを取り、万が一災害が起きたときには互いに協力し合い被害を最小限に抑えることができる体制が必要であると実感しました。

曙川分団 高田 光陽



文化財防火デーである平成22年1月26日(火)、消防署・消防団合同の文化財消防訓練が実施されました。

古くはこの地を橘島久宝寺といい、早くから親鸞聖人の高弟信願房法心の建てた慈願寺があり、文明二年(一四七〇)蓮如上人がここに布教し顕証寺(久宝寺御坊)を建てました。

顕証寺は、真宗西本願寺別院で連枝の格式をもち、河内十二坊の総支配をつとめていたようです。

このように私たちが住む街の貴重な歴史や文化財を後世に残していくためにも、今回のような訓練を実施し続けることは、大変意義があることだと思えます。

久宝寺分団 志村 武

